

参考聖書 :エゼキエル書37:15-28; ヨハネの黙示録7:9-17

聖書箇所 : ヨハネによる福音書1:1-14

説教題 : “言は肉となって、私たちの間に宿られた。”

讚美歌

頌栄 - 詩編 66 1,3,5

十戒朗読 - 詩編96編 1,2

説教の前 - 詩編54編 1,2,3

説教の後 - 詩編46編 1,3,4

頌栄 - 詩編105編 1,2

言は肉になって私たちの間に宿られた。

序論

四つの福音書にはイエス・キリストの御生涯が具体的に記されています。格福音書を記した著者は、それぞれの観点と強調点を持って、イエス・キリストの生き方とその教えを、書き記しました。それで、私たちは、イエス・キリストに関して豊かに学ぶ事が出来ます。

格福音書の始まりは、それぞれですが、四つの福音書が共に強調している事は、“イエス・キリストの神性”です。

イエス・キリストを見る観点は色々ありました。イエス・キリストを単なる人間であり、優れた人間の先生だと主張する人は、昔も、今もいるのも事実です。そのような過ちから、イエス・キリストを守る為に必要な事は、イエス・キリストの神性を確かにする事です。すなわち、イエス・キリストは、“どのように、神様として、この世に来られたのか”という事です。

信徒である私たちは、いつも、イエス・キリストを見上げる時、“人間であるイエス・キリストより、神様であるイエス・キリスト”を見上げなければなりません。これを教理的に言うと、イエス・キリストは“肉だ”だと言うのではなく、“肉を取った”と言い表す事です。イエス・キリストの本姓は、神様です。しかし、神様であるイエス・キリストが、人間性を取られた出来事が、聖受肉です。

このような観点で、福音書の中で、イエス・キリストの神性を一番明白に示しているのが、ヨハネによる福音書です。ヨハネによる福音書は、他の福音書と違って、イエス・キリストのご降誕の出来事を記していません。ヨハネによる福音書には、ヨセフとマリヤが住民登録をしに行った内容も、イエス様が、飼い葉桶でお生まれになった事も、羊飼たちや、東方の博士たちの話もありません。もちろん、ヨハネによる福音書を記したヨハネもその事実を全部知って

いました。しかし、そのような内容を記さなかったのは、ヨハネによる福音書の^{きょうちゆうてん}強調 店が、“イエス・キリストは神様”だという事であるからです。

今日、私たちが共に学ぶ内容は、イエス・キリストが、真の神様であるという事です。それを確かに弁える為に、今日、私たちが^{しゅうちゆう}集中したいのは、ヨハネによる福音書1章の、“言が肉となった”という御言葉です。今日も、神様の御言葉に耳を傾けて、御言葉によって与えられる恵みを豊かに味わうようにお祈り致します。

神様である言

ヨハネによる福音所が示しているイエス・キリストを一言で言い表すと“神様である言”です。“神様である言”の意味は、その言が、“この世を創造されたその神様であり”、その言が、この世に来られたイエス・キリストだと、いう事です。

1章1節には、その‘言’である方は、1) 父なる神様と^{くべつ}区別されて、2) 同時に^{どうじ}神様である事が確かに記されています。1) “言は神と共にあった”と記されているので、確かに、‘言’は、父なる神様と^{くべつ}区別されます。しかし、同時に2) “言は神であった。”と記されているので、言は、確かに神様であるという意味です。すなわち、言は、‘神様であり、父なる神様と^{くべつ}区別されるお方’です。三位一体の^{きょうり}教理を知っている私たちは、1節を読む度に、その‘言’が、二位の神様である御子イエス・キリストを表している事を知っています。すなわち、この世に来られたイエス・キリストは、父なる神様がこの世を創造された時、共のおられた真の神様であるという意味です。

私たちの内に幕屋を張られる

それで、神様である言が肉となった出来事を14節は次のように記しています。

“14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の^{ちち}ひとり子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。”

“言は肉となって、わたしたちの間に宿られた”という意味は、^{せいじゆにく}‘聖受肉’、すなわち、“神様が人間の体を取った”事を意味します。しかし、“言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。”というのは、単に、神様であるイエス・キリストが人間の体を取って、この世に来られたという意味だけを教えているのではありません。それと共に、もっと大事な意味を示しています。そして、その意味が、神様であるイエス・キリストが人間の体をとってこの世に来られた^{ほんしつ}本質

1. 幕屋を張る

14節の言葉の意味を具体的に弁える為には、まず、一つの言葉の意味を確認する必要があります。 “言は肉となって、わたしたちの間に宿られた”の’宿られた’という言葉です。’宿られた’という言葉は、ギリシャ語で、‘skhnow’ (スキノヴ)です。’住む’、’居住する’また、’幕屋を張る’という意味です。恐らく...旧約時代のイスラエルの人々にとって“どこに住みますか”という意味は、“どこに幕屋を張りますか”ということなので、同じ意味で使われたと思います。

新約聖書で、’skhnow’という言葉は、“幕屋を張る”という言葉で使われています。興味深いのは、その言葉は、新約聖書で五回使われていますが、全てヨハネだけが使っているという事です。代表的な聖書箇所は、ヨハネの黙示録7章15節です。

“15 それゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、／昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、／この者たちの上に幕屋を張る。”

それで、ヨハネによる福音所1章14節の“宿られた”と言う言葉を次のように言い換えることができます。“言は、私たちの間に幕屋を張られた。”

2. イエス・キリストがこの世に来られた出来事は、聖幕を張った出来事

では、イエス・キリストが私たちの間に幕屋を張らたと言う言葉の意味が、何であるかを具体的に学びます。イエス・キリストが、この世に来られた出来事を’幕屋を張った’というのは、イエス・キリストが旧約の臨在の幕屋の具現である事を意味します。私たちは、旧約の臨在の幕屋に関して聞いた事があります。旧約の臨在の幕屋は、“神様が、御自身の民に出会う場所”です。出エジプト記29章42～43節です。

“42 これは代々にわたって、臨在の幕屋の入り口で主の御前にささぐべき日ごとの焼き尽くす献げ物である。わたしはその場所で、あなたたちと会い、あなたに語りかける。43 わたしはその所でイスラエルの人々に会う。そこは、わたしの栄光によって聖別される。”

臨在の幕屋は、神様がおられる所であり、神様がご自身の民に御自ら出会う所でした。臨在の幕屋は、“神様がご自身の民と交わりをされる所”です。

それで、臨在の幕屋は、イスラエルの宿営地の真ん中にありました。役2～3百万人が荒野で宿営していても、全ての人々が、自分自身の宿営地に“神様が共におられる事”を分かることが出来ました。なぜなら、彼らの宿営地の真っ中に臨在の幕屋があったからです。また、その臨在の幕屋に、神様のご降臨を象徴する雲の柱が天までに至っていたので、人々は、どこでも、神様の御臨在を見ることが出来ました。

それで、臨在の幕屋は、天におられる神様が、御自ら、この世に来られて、それも、人間の目に見える姿で来られて、“彼らの間に住まいを整えられた事”、“彼らと共に住まれる事”、“交

わりをする”という意味を現します。臨在の幕屋は、神様が、ご自身の民にご自身を現す’所でした。

私たちは、イエス・キリストが、ご自身を幕屋、神殿まぐや しんでんだを語られた事を聖書で見つけることが出来ます。

- ヨハネによる福音書2章19節でイエス様は、次のように語られます。“19 イエスは答えて言われた。「この神殿しんでんを壊してみよ。三日で建て直してみせる。」”その後21節で次のように語れます。“21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。”神殿と幕屋は、目に見える建物ですが、イエス・キリストは、ご自身が神殿、臨在の幕屋だと語れました。
- そして、イエス・キリストのお名前が、‘インマヌエル’である事を思い出して下さい。インマヌエルとは、正確せいかくにいうと、臨在の幕屋まぐやを意味します。インマヌエルの意味は、皆さんがよく知っているように、“神様が私たちと共におられる”という意味です。神様が、ご自身の民と共におられる所が臨在の幕屋で、また、イエス・キリストがその臨在の幕屋まぐやだと言う事です。それで、インマヌエルという言葉も、イエス・キリストが臨在の幕屋まぐやである事を現します。
- それで、イエス・キリストがこの世に来られた出来事を、ヨハネによる福音書は、“14 言は肉りんざいとなって、わたしたちの間に宿られた。”と記して、イエス・キリストが臨在の幕屋まぐやである事を現しています。

旧約の臨在の幕屋の意味は、神様がご自身の民に出会う所です。また、イエス・キリストがこの世に来られた出来事を、ヨハネによる福音書1章14節は、“言は肉となって、わたしたちの間に宿られた”と記しています。すなわち、臨在の幕屋と、聖受肉が同じ出来事であり、同じ意味であることです。

今まで、学んだように、臨在の幕屋は、“天におられる神様が、御自ら、この世に来られて、ご自身の民と御自ら共に住まわれる”所です。そして、イエス・キリストがこの世にインマヌエルされた出来事、わたしたちの間に宿られた出来事は、ご自身の民と共に住まわれる為に、御自ら、来られた出来事です。イエス・キリストの受肉じゆにくは、神様の御心である、“わたしがあなたたちと共に住む”という約束やくそくの成就じゆうじゆです。

それで、14節の“14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。”という言葉は、イエス様の聖受肉せいじゆにく、神様であるイエス・キリストが人間の体を取って来られた事実と神様の御心、すなわち、神様が御自らこの世に来られて、ご自身の民と共に住むという神様の御心、ご自身の民と親密しんみつな交わりをするという神様の御心を示しています。

3. 幕屋は人間の体を示す :聖受肉の意味を高める

そして、幕屋に関する聖書の教えは、ここで終わるのではありません。.

私たちは、聖書のあちこちで、‘人の体’が幕屋だと記している聖書箇所を見つけます。代表的な言葉が、コリントへの信徒への手紙二5章1節です。

“わたしたちの地上の^{ちじょう}住みかである幕屋^{まくや}が滅び^{ほろ}ても、神によって^{たてもの}建物が^{そな}備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天^{えいえん}にある永遠の住みかです。”

“地上の住みかである幕屋”は、死んで、腐るべき私たちの体を意味します。この言葉は、“天にいる永遠の住みか”と違う事です。それで、パウロ先生は、2節で次のように語りました。

“2 わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地上の幕屋にあつて苦しみもだえています。”

コリント信徒への手紙二5章に記されている幕屋^{まくや}は、人間の体、すなわち、この世での私たちの体を意味します。

ペトロの手紙二1章13～14節も同じ事を教えています。

“13 わたしは、自分がこの体を^{かり}仮の^{やど}宿としている間、あなたがたにこれらのことを思い出させて、奮起^{ふんき}させるべきだと考えています。14 わたしたちの主イエス・キリストが示してくださったように、自分がこの^{かり}仮の^{やど}宿を^{はな}間もなく離れなければならないことを、わたしはよく承知^{しょうち}しているからです。”

:ここで使徒ペトロは、人間の体を言い表す時‘幕屋’と言う言葉を使っています。聖書で、幕屋^{まくや}は、人間の体を意味します。

その事実は、旧約聖書でも見つけることができます。ヨブも自分自身の体を言い表す時、幕屋と言う言葉を使いました。19章12節です。

“12 その軍勢^{ぐんぜい}は結集^{けっしゅう}し／襲^{おそ}おうとして道を開き／わたしの天幕^{てんまく}を^{かこ}囲んで陣^{じん}を敷いた。”

イザヤ書38章12節です。

“12 わたしの生涯^{しょうがい}は羊飼^{ひつじか}いの天幕^{てんまく}のように／引き抜^ひかれ、取り去^ぬられてしまった。わたしはわたしの命^{いのち}を織物^{おりもの}のように巻^まき終^おわり／糸^{いと}から切り離^きされてしまった。昼も夜も／あなたはわたしの息^いの根^ねを止めようとされる。”

そのように、聖書は、あちこちで、人がこの世で生きる時持つ、弱くて、限りがある人間の体を言い表す時“幕屋”という言葉を使いました。

4. ここで、学ぶべき事

ここで、考えなければならないことがあります。私たちは、“イエス・キリストが、私たちの間に幕屋を張った”という意味を学びました。それは、イエス・キリストが幕屋になられたと言う意味で、神様が、ご自身の民と共におられる出来事を表す表現だと学びました。

では、考えてみましょう。神様が、ご自身の民と共におられる方法は、何でしょうか。‘神様は、どういう方法’で、私たちと共におられるのでしょうか。炎と雷の中で臨在される栄光の姿そのまま、私たちの間におられますか。イエス・キリストは、‘栄光の姿、永遠の姿’を持って私たちと共に住まわれますか。

私たちは、‘幕屋’には、二つの意味があると学びました。“神様が御臨在される神殿”を意味します。また、“人間の体、この世で腐るべき弱い人間の体”を意味します。それで、イエス・キリストが、私たちの間に幕屋を張ったという事は、イエス・キリストが、私たちを救ってくださる為に、どこまでへりくだられたのかを教えてください。イエス・キリストは、弱くて、腐ってしまう人間の体を取るまで、へりくだられたお方です。

イエス・キリストが、“私たちの間に幕屋を張られた。”という意味は、“神様がご自身の民と交わりを願われるお方”であることと、“神様であるイエス・キリストが人間の弱い体、限りがあり、腐ってしまうべき人間の体を取るまで、私たちを愛される”事を教えています。

これが、パウロ先生がフィリピの信徒への手紙で告白している事です。2章6～8節です。

“6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、7 かって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。”

これが神様が私たちを救ってくださる方法であり、私たちを愛して下さる方法です。

5. エゼキエル書で：神様は、なぜ、私たちの間で、幕屋を張られたのか？

イエス・キリストが、この世に来られた出来事を、聖書は、“幕屋を張る”という言葉で言い表しました。私たちは、その短い文書に神様の豊かな恵みが含まれている事を学びました。

では、前に進んで、次のような質問をしてみましょう。神様は、なぜ、私たちの間に、幕屋を張って、住まれ事を願われたのでしょうか。なぜ、イエス・キリストは、肉となって、わたしたちの間に宿られたのでしょうか。その答えを、私たちは、エゼキエル書37章で見出すことが出来ます。

1) エゼキエル書37章

エゼキエル書37章27～28節には、神様がご自身の民の間に幕屋を張られるという内容が記されています。

“27 わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
28 わたしの聖所が永遠に彼らの真ん中に置かれるとき、諸国民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知るようになる。”

この聖書箇所には、今まで、私たちが学んだ全ての内容の核心が省略されて記されています。このみ言葉は、神様がアブラハムに約束された事が成し遂げられたことを示しています。また、この御言葉は、レビ記11章44節の言葉が成就された事を示しています。

“44 わたしはあなたたちの神、主である。あなたたちは自分自身を聖別して、聖なる者となれ。わたしが聖なる者だからである。地上を這う爬虫類によって自分を汚してはならない。”

しかし、私たちは、この御言葉を通して、“神様は、なぜ、私たちの間に、幕屋を張って、住まわれたのかに関して、分かる事が出来たので、もっと注意を払って読まなければなりません。特に37章は、神様が、いつ、ご自身の民の間に幕屋を張られるかを教えています。

2) 枯れた骨の復活

エゼキエル37章は、私たちが良く知っている御言葉です。特に、私たちが27章をよく知っている理由は、“神様が私たちの間に幕屋を張られる”という意味を教えているからではありません。私たちは、枯れた骨の復活の奇跡の為に、37章の内容を思っています。では、内容を見ましょう。

① まず11節です。

“11 主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。”

エゼキエルが見た枯れた骨は、イスラエル、すなわち、神様の民です。彼らは死んで、滅んで、彼らの骨は、枯れてしまいました。以前、彼らは、非常に大きな集団だったにもかかわらず（10節）。

② しかし、12節を見ましょう。

“12 それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。”

続けて13節です。

“13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。”

：二つの聖書箇所は、明白に‘復活’を教えています。復活の意味の定義ていぎのような言葉です。復活とは、神様から離れて、霊的に死んだ人々に、‘再び命が与えられる’出来事です。そういう意味で、12～13節の御言葉は、復活の出来事を明白に絵の本のように、私たちに教えています。

③ 14節は、復活の出来事が、‘聖霊の時代’かんれんと関連している事を記しています。

“14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住ませる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われる。”

“わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる”という言葉は、新しい時代に、聖霊が来られる事を意味します。すなわち、枯れた骨のような神様の民たちが新しく生かされる事は、聖霊のご降臨によって出来るという意味です。

37章27～28節の御言葉は、“枯れた骨の復活”の内容の文脈の中である事を思ってください。では、“わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。”という意味が、何であるか少し分かるようになったと思います。神様のご自身の住まいを置くという言葉は、枯れた骨のような私たちが生かす神様の御業の中にあります。この御言葉の文脈は、確かに、神様がエゼキエルに示してくださった、今は、たとえ、イスラエルは、枯れた骨のような存在ですか、神様が彼らに命の霊を吹き込んで下って、再創造される約束の御言葉の文脈です。それで、神様の住まいが私たちの間に置かれる出来事は、枯れた骨を生かす出来事によって成し遂げられます。すなわち、神様が、ご自身の住まいを私たちの間に置かれる出来事は、神様が、ご自身の民を生かした出来事の結果として与えられる恵みであるという事です。

結局、神様が、エゼキエルに示してくださって出来事を通して、私たちに啓示して下さる私たちの未来は、“神様は、枯れた骨のようなご自身の民を全部生かして下さって、彼らの間で、お住まいを置き、また、共におられるという約束”です。

その事実を支える証拠は24～26節にも記されています。

- 24節は、‘王の回復’を示します。
- 25節は、‘土地の回復’を示します。
- 26節は、‘神様の民としての身分の回復’を示します。

神様が、ご自身の住まいを彼らの間に置かれるという約束は、26節の最後にあります。不従順によって、滅んで枯れた骨になったイスラエルを生き返して、王と土地と、契約を回復して下さった結果として、“神様はご自身の民と共におられる”という約束です。神様が、私たちの間に住まいを置かれたという事は、私たちが、“神様の民として完全に回復”された事を意味します。

では、イエス・キリストが私たちの間に幕屋を張られた出来事が現している事は何でしょうか。エゼキエル書37章27～28節の言葉に基づいていうと、イエス・キリストが私たちの間に幕屋を張られたという意味は、神様が、私たちをご自身の民として、私たちの身分を回復してくださって、永遠に私たちと共におられ、私たちの住まいになってくださるという約束の成就です。

6. 黙示録7章で

それで、この事実を黙示録は次のように記しています。7章15～17節

“¹⁵ それゆえ、彼らは神の玉座の前において、／昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、／この者たちの上に幕屋を張る。 ¹⁶ 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、／太陽も、どのような暑さも、／彼らを襲うことはない。 ¹⁷ 玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、／命の水の泉へ導き、／神が彼らの目から涙をことごとく／ぬぐわれるからである。”アメン!

7. 私たちが幕屋になる

幕屋に関してもう一つのことを学んで今日の説教を終わりたいと思います。今日は、‘幕屋を張る’という言葉から、聖受肉の意味まで、学びました。皆さんと学びたいもう一つの事は、神殿に関する事です。

旧約の神殿は、イエス・キリストの^{もけい}模型として存在しましたが、新約時代には、

- 1) イエス・キリストが神殿になり、
- 2) また、神殿の意味は、前に進んで、イエス・キリストを信じる信徒一人一人を意味します。コリント信徒への手紙一3章16 です。

“あなたがたは、自分が神の^{しんでん}神殿であり、神の霊が自分たちの^{うち}内に住んでいることを知らないのですか。”

- 3) 信徒の交わりである教会が神殿になりました。エフェソの信徒への手紙2章21節です。

“²¹ キリストにおいて、この^{たてもげんたい}建物全体は^く組み合わされて^あ成長し、^{せいちょう}主における聖なる神殿となります。”

私たちは、今まで、臨在の幕屋、すなわち、神殿の意味を学びました、それで、信徒一人一人が神殿であり、教会が神殿である意味が何であることを説明する必要はないと思います。

ヨハネによる黙示録13章6節を読みましょう。

“6 そこで、^{けもの}獣は口を開いて^{ひら}神を冒^{ぼうとく}し、神の名と神の^{まくや}幕屋、天に住む者たちを^{ぼうとく}冒流した。”

“神の名と神の幕屋”という言葉があります。また、その後の言葉、“天に住む者たち”という言葉は、神様の幕屋を意味します。神の幕屋は、信徒を意味します。黙示録は、神様がおられる、御臨在され幕屋、神殿が私たちであると記しています。

私たちの間に幕屋を張られた方は、イエス・キリストです。^{まくや}幕屋の^{もけい}模型もイエス・キリストです。

しかし、聖書は、私たちに確かに教えています。イエス・キリストを信じる信徒一人一人が神殿であると。すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によって、私たちも、神様のお住まいである神殿になりました。これが、イエス・キリストが私たちの間に^{まくや}幕屋を張られた^{きゆうぎよくてき}究極的な^{もくてき}目的です。

私たちは、イエス・キリストによって、“神様がおられる神殿”になりました。私たちは以前^{とが}罪と咎に満たされて滅ぶべき存在でしたが、神様が、そのような私たちを、イエス・キリストを通して、救ってくださって、ご自身が住まわれる神殿にして下さいました。

どれほど尊い恵みでしょう。1週間も私たちを神様が御臨在される神殿にしてくださった神様に感謝を捧げる信仰生活をするようにお祈りいたします。